

2011.9.1



医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

2 副センター長の紹介

3 取組紹介

- スキルス・ラボにおける多彩な取組
- 模擬患者育成
- 大学院GP
「医療系クラスターによる組織的大学院教育」

4 これからの主な取組

1 巻頭言



～東日本大震災から学ぶ～

医療教育開発センター長 赤池 雅史

東日本大震災が発生してから、約半年が過ぎようとしております。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

未曾有の大災害を目の当たりとして、自然の脅威と不条理を感じるとともに、医療人を目指す者として自分には何ができるのか、何をなすべきかと自問した学生は少なくないでしょう。その想いこそが医療の原点であり、それを語り合い、議論して、今後の自らのあり方に活かしていくことは、医療人を目指す者の責務であると思います。医療教育開発センターでは、例年、蔵本地区1年生を対象に実施している「チーム医療入門ワークショップ」において、今年度は、「医療人を目指す者として東日本大震災から学ぶこと」をテーマとして取り組むことにしました。医療支援チーム、放射線測定チームの一員として現地で被災地支援活動を行った職員の方々や、ボランティア支援活動を行った学生の皆さんからお話を伺い、さらに所属する学部学科の枠を超えてのワークを予定しています。もちろん、現地を体験していない者が、限られた時間で、安易に学べるテーマではありませんが、将来の医療人にとって、職種間連携の基盤形成や医療プロフェッショナルリズム醸成の貴重な第一歩となることを目指したいと考えています。

また、今回の震災では事前シミュレーションの多くが実際には有効に機能しなかったことについて「想定外」という言葉が頻繁に使用されました。その一方で、事前教育で身に付けた対応力で、ほとんどの者が巨大津波の難を免れた釜石市の小中学生の例や、災害医療コーディネーターとして、避難所のアセスメントと自発的ネットワーク構築を迅速に実施し、想定外の事態に果敢に対応するリーダーシップを発揮された石巻赤十字病院外科医師の例が知られています。シミュレーション教育は、医療教育の重要な柱として、徳島大学でもスキルスラボを拠点に実践されていますが、すべて、何らかの想定をもとにシナリオを作成し実施されています。その「想定」が破綻した際に対応できる人材をどう育成するか、すなわち、情報を基に自ら考え行動する力、問題解決能力、危機に対するリーダーシップ力をいかに育成するか、これは災害医療だけではなく、医療安全を含めた日常診療すべてに共通するものであり、マニュアル化に陥りやすい現在の卒前・卒後の医療人教育のあり方に突きつけられた課題は極めて大きいと思います。

医療教育開発センターでは、様々な医療人教育の取り組みにおいて手段が目的化しないように、医療現場や社会との関わり合いを基盤として人材育成支援に努める所存です。皆様の忌憚ないご意見とご指導・ご鞭撻を、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

2 副センター長の紹介 ●●●

岩田 貴(医療教育開発センター専任准教授)

副センター長を拝命して、はや1年が経過した。これまで先輩方が築かれた活動を継承、発展、充実させることにセンター職員がチームワークを集結して邁進してきた甲斐あって、年間事業数、利用者数ともに右肩上がり、嬉しい限りである。最近では海外からの視察、特に学生交流の一環として実技実習を含んだ見学が増えている。モンゴル、韓国、ドイツと国は様々、学年もその都度異なるが、ハイレベルなシミュレーターに取り組む真摯な姿勢、熱意にはこちらが勉強させられるところが多い。現在、外国人学生用のシミュレーター実習のコンテンツの充実を計り、英語での指導法の考案やテキストの作成も行なっている。「国際スキルラボ」へ進化することが現実味を増し、楽しみな今日このごろである。



永田俊彦(口腔科学教育部 教授)

歯学部および口腔科学教育部の代表として平成23年度の副センター長を務めることになりました。私自身、歯周病の患者さんを日々診療しながら臨床教育にも携わっておりますが、人と人がじかに接する医療現場においては、これまで以上にコミュニケーション能力が重要であり、さらに重要なことは臨機応変に対応できる医療人を養成することだと痛感しています。研究面においては、現在の徳島大学の研究レベルを維持し一層活性化するためには、若手研究者の育成が何よりも優先課題であると認識しています。蔵本キャンパスでの医・歯・薬・栄養・保健の壁を越えた横断研究体制を整備することで、共同研究が推進され、その結果としてすべての教育部から世界で活躍する研究者が輩出されることを期待しております。



土屋浩一郎(薬科学教育部 教授)

本年度より、薬学部・薬科学学務委員長として医療教育開発センターの副センター長のメンバーとなりました。どうぞよろしくおねがいたします。

さて、薬学部では薬剤師6年制が開始したことにより医療人教育が一層求められるようになり、学部1年生に対して臨床技能体験実習を医療教育開発センターのスキルラボで実施しています。また、学部5年生には、医療教育開発センターの協力のもと本年度から病院実習におけるIPEの試行を行っています。

大学院教育では平成24年度から薬科学教育部において改組した2つの大学院博士課程(創薬科学専攻・博士後期課程と薬学専攻博士課程)がスタートします。これらの大学院では今まで以上に蔵本地区の他教育部との連携が重要になると考えますので、医療教育開発センターを中心とした活動に積極的に関わっていきたく考えています。



二川 健(栄養生命科学教育部 教授)

医療教育開発センターは、「医療現場で直接役立つ医療教育」というスローガンのもと、徳島大学の医療系大学院・学部でもうけられた組織である。その活動はニュースなどで、在学の学生のみならず医療専門職を目指す高校生にも広く知れ渡りつつある。残念ながら、私が担当する栄養学科・栄養生命科学教育部は、これまで患者に対して医療行為を行うことが少なかったためか、折角ある立派な施設を充分利用できていないようである。徳島大学栄養学科・栄養生命科学教育部は、目標として臨床に強い栄養学教育を掲げ、新分野(医科栄養学分野)の設立を目指している(メディカル・ニュートリション構想)。現在、医療現場に立つ学生、大学院生がどんどん増加しているので、今後は医療教育開発センターの施設等を利用し医療技術の習得が容易にできるシステムを構築していきたい。



近藤和也(保健科学教育部 教授)

保健科学教育部は、平成18年4月に博士前期課程、平成20年4月には博士後期課程が設置された。大学院への進学志望数は多く、平成22年から博士前期課程の定員を14名から19名に増やした(平成22年の入学人数は、博士前期課程が26名、博士後期課程が5名)。

がん専門看護師、医学物理士などの医療に従事する高度専門職業人の育成するため、e-learningを活用し様々な分野の専門家の講義を受けるようになりました。HBS研究部の他の4つの研究部と共同して「Tokushima Bioscience Retreat」や「2011サマープログラム」へ積極的に参加しています。今までに3名の外国人留学生が在籍しています。さらなる留学生の受入にため、大学院入試制度の改正、海外大学(フロリダアトランティック大学、ヘルシンキメトロポリア応用化学大学など)との交流などを積極的に行っています。他の4研究部とともに、医療教育開発センターを発展させ、保健科学教育部を充実させて参ります。



3 取組紹介 ●●●

■ スキルス・ラボにおける多彩な取組 (Clinical Skills Lab. : CSL=通称スキルス・ラボ)

利用件数も増え、学内外研修に加え、海外からの見学・研修にも対応しています。

● モンゴル健康科学大学交流プログラム スキルス・ラボ実習

日時:平成23年5月9日 研修生7名



縫合



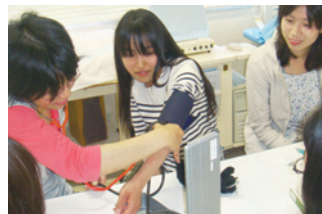
衛生的な手洗い

● 薬学部1年生臨床技能体験

日時:平成23年5月20、27日 参加人数86名



救急蘇生



血圧測定

● ソウル国立大学医学大学校4年生 スキルス・ラボ実習

日時:平成23年7月19日 研修生6名



中心静脈カテーテル挿入実習



採血

● 歯学部口腔保健学科チーム歯科医療学基礎実習

日時:平成23年7月12、26日 参加人数16名



気管内吸引



採血

● 第2回徳島大学AWAベビーシッター養成講座

日時:平成23年7月3日 参加人数17名
主催:AWAサポートセンター



乳児の救急蘇生法



小児の救急蘇生法

● 徳島県高校生 医学体験実習

日時:平成23年8月4、5日 参加人数70名
主催:徳島県、徳島大学医学部



縫合



聴診

■ 模擬患者育成

養成プログラムを終了した新人を含め14名(男性5名、女性9名)にて活動しています。医療系学部、学科における、医療コミュニケーション教育のお役に立ちたいと思います。今年度は歯学部「医療面接講義」「OSCE」、医学部医学科「4年次基本的臨床技能実習」「医療面接講義」「OSCE」、保健学科放射線技術科学専攻「臨床技能試験」、薬学部「OSCE」への協力が予定されています。



医学科5年生クリクラ(地域医療)



模擬患者ボランティアの方々

■大学院GP「医療系クラスターによる組織的大学院教育」報告

文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」による取り組みが最終年度をむかえました。

今年度は26名の大学院生がRAとして採用され、各クラスターにて研究活動を進めています。昨年度と同様に各クラスターによるクラスターコアセミナーが順次開催されており、後期にはミニリトリートも開催されます。「クラスターコアセミナー」は教育クラスターを構成する先生方にそれぞれのご研究の最先端を講義していただくもので、詳細は大学院GPのHPにて確認できます。

<http://healthbio.basic.med.tokushima-u.ac.jp/jp/medc/hbsgp.html>

大学院GPの活動は大学院教育を通じて研究者間交流を深めることも大きな目的です。各クラスターに所属する大学院生のみならず、蔵本キャンパスの多くの方に参加、聴講していただくことを願っています。

年度末には外部評価を含め、3年間の成果と問題点を明らかにし、今後のクラスター大学院の運営に活かします。

【クラスターコアセミナーの様子】



(於:第一カンファレンス室)



(於:医学部第1会議室)

後期には昨年同様、クラスターミニリトリートを開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

4 これからの主な取組

●2011 Tokushima Bioscience Retreat

日時:平成23年9月15日(木)~17日(土)
ところ:香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島

●医療教育講演会

演題『視点を変えたらースーダンと東日本大震災の経験からー』

日時:平成23年10月26日(水)

講師:川原 尚行 先生

(NPO法人ロシナンテス理事長)

●第3回Simulation医療教育Workshop in 徳島

日時:平成23年11月12日(土)

講師:安井 清孝 先生(慶應義塾大学医学部)

●【HBS研究部FD】How to 医療コミュニケーション教育 ～教員の役割、模擬患者の役割～

日時:平成23年12月3日(土)

講師:藤崎 和彦 先生(岐阜大学)

●【HBS研究部FD】多職種連携教育(IPE)講演会 演題『多職種連携:見られ合う職場』

日時:平成23年12月9日(金)

講師:福島 統 先生(東京慈恵会医科大学)

11~1月 大学院GP クラスターミニリトリート

3月 大学院GP クラスター研究報告会

その他 毎月 CV個別講習会

徳大きりんセミナー

(徳島基本的臨床技能セミナー)

●学会活動●

第43回日本医学教育学会大会

平成23年8月22~23日(広島市)

●看護学専攻学生に対する統計学教育改善の試み ー自作問題集と項目特性曲線による評価ー

三笠洋明¹⁾、赤池雅史²⁾、福井義浩³⁾、徳島大学医学部教育支援センター¹⁾、徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター²⁾、機能解剖学分野³⁾

●地域で研修する若手医師に対する大腸鏡視下手術の教育における問題点と対策:地方からの提言

岩田 貴^{1,2)}、赤池雅史¹⁾、長宗雅美¹⁾、福富美紀¹⁾、島田光生²⁾、栗田信浩²⁾、西岡将規²⁾、沖津 宏³⁾、藤野良三⁴⁾、安藤道夫⁵⁾、惣中康秀⁶⁾、徳島大学HBS研究部医療教育開発センター¹⁾、消化器・移植外科²⁾、徳島赤十字病院³⁾、徳島県立中央病院⁴⁾、阿南共栄病院⁵⁾、徳島市民徳島市民病院⁶⁾

●医療安全をめざした多職種間連携教育の取り組み ー徳島大学のPEモデルー

長宗雅美¹⁾、岩田 貴¹⁾、辻 暁子¹⁾、石田加寿子¹⁾、福富美紀¹⁾、射場智美¹⁾、赤池雅史¹⁾、徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター¹⁾

●医療教育miniコラム●

「Reflective practitioner(反省的実践家)」

Donald A. Schönが1983年に提唱。現実の経験の中で「行為の中の省察(reflection in action)」と「行為についての省察(reflection on action)」を繰り返しながら、能力を開発していく専門家。複雑・複合的かつ不安定な問題点の解決が必要とされる医療人に相応しい専門家像として注目されている。標準化された技術をそのまま踏襲する「技術的熟練者」(technical expert)と対比される。